

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門」

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	伝馬橋史跡説明板設置		
団体名	清須越400年事業ネットワーク		
提案の活動を行う地域	名古屋市中区～中村区～西区		
提案の内容	<p>私たちの会は平成20年度名古屋都市センターの提案型「グループ交流会」に「清須越400年プロジェクト」で応募して採用され、平成21年5月に当会が設立されました。発起団体はNPO法人 揚輝往の会、東区まちそだての会、那古野一丁目町づくり研究会、美濃路まちづくり推進協議会の4団体です。</p> <p>平成21年度から「清須越」についての調査・研究を継続しております。それらの成果は、既に各種のマップや清須越冊子にまとめられています。資料として残されたものは一般市民の方には努力しないと、その情報に接することはできません。今後は名古屋の原点である「清須越」の歴史情報を、広く市民の方々の目に留まる形で公開してゆくことが必要と考え、史跡説明板や史跡碑などの「かたち」にしてゆく活動をしてゆきます。その第1弾として「伝馬橋」を選びました。</p> <p>伝馬橋は堀川七橋のひとつ。堀川は清須越に際し、福島正則により開削され、五条橋と伝馬橋が清須越の橋といわれています。東海道と中山道を繋ぐ街道「美濃路」は幕府の道中奉行が管理した第1級の国道。熱田を発し、橋町から本町通りを北上し伝馬町札の辻を西折れし、江戸時代、最も賑わったといわれる伝馬通りを通り、伝馬橋を渡って直ぐ北折れ、堀川沿いに中橋、五条橋に至ります。ここからさらに北上し、小船町、海老屋町から旧清須街道を西へ、枇杷島を経て清須に向います。美濃路を通る参勤交代の大名行列、朝鮮通信使、琉球王使も皆この伝馬橋を渡りました。名古屋の中心「札の辻」を結ぶ、堀川七橋の中では最も重要な橋です。</p> <p>名古屋市では平成23年度に都市計画マスタープランを策定し、その中で、「世界に誇る都心づくり」として「名古屋駅」「栄・伏見・大須」「ささしま・名駅南」「納屋橋・四間道」の4地域を重点地域に位置づけ、積極的に地域まちづくりをすすめると述べています。「納屋橋・四間道」地区では「歴史ある水辺空間である堀川を生かしたまちづくりを進めることで、都心の風格とうるおいを創出します。中略 親水性の高い広場や遊歩道の整備を図る。中略 歴史的な資源を生かした魅力ある空間づくりをめざす」と述べ、平成24年1月から「四間道・那古野地域まちづくり」立ち上げ団体会議(西区)の活動がはじまりました。しかしこの地域まちづくりは西区の枠のなかでの活動となります。四間道は美濃路の裏道。納屋橋と四間道を繋ぐものとして美濃路、堀川が重要となります。その要が伝馬橋です。</p> <p>私たちは昨12月、名古屋市長政土木局河川階級河川計画課へ「伝馬橋史跡説明板設置提案書」を提出しました。名古屋市として予算化は厳しいため、都市センターの助成金により、実現を目指します。今後は南寺町、東寺町、という呉服店をはじめ清須越商人、清須越寺社など、史跡碑の設置を図っていきます。</p>		
活動期間	平成24年4月～平成25年3月	助成金交付申請額	50万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感 が得られる活動か
--------------	---

地域に根ざしたまちづくり活動内容か

清須越は名古屋のまちづくりのルーツ。その歴史を史跡説明板などにより、市民が理解することは市への愛着を深め、市民の一体感を育む。区の枠を超え、広域のまちづくりは当会の特色でもあります。一方西区の「四間道・那古野地域まちづくり」には当会の団体会員「美濃路まちづくり推進協議会」「那古野一丁目町づくり研究会」が立ち上げ団体として参加しており、幅広い活動が期待できます。

・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か

名古屋市都市計画マスタープランに沿った提案であり名古屋の活性化につながります。

・地域との連携や協力が得られる活動か

「納屋橋・四間道」都心づくりは西区・中村区・中区の連携が大切。「四間道・那古野地域まちづくり」立ち上げ団体会議は西区のまちづくり団体はもとより、中区の「堀川文化を伝える会」、熱田区の「NPO 法人ゴンドラと堀川水辺を守る会」も参加し、広域で多様な協力が得られます。

・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か

清須越400年を主題としたマップ制作、書籍出版はそれまでされたことがない事業として、評価を受けております。これらの調査研究事項を市民の誰にでも分かる「かたち」にすることは、情報の市民還元であります。それまで、なにげなく通っていたところが、由緒ある史跡であることを知ることは地域への愛着と共感を深めます。

審査基準②

独創性

- ・創意工夫にあふれた活動か
- ・地域性を活かした個性豊かな活動か
- ・新しい視点やアイデアがあるか

(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

・創意工夫にあふれた活動か

民間による清須越の視覚化は初めての活動であります。五条橋は名古屋市が清須越に関する説明板を設置していますが、五条橋と同等、それ以上重要な伝馬橋には説明板がありません。都市計画マスタープランの重点地域に位置づけられたこの地域の中心でもあり、この地域づくりの先駆けとして、設置することに斬新性があります。

・地域性を活かした個性豊かな活動か

都市計画マスタープランのなかの「世界に誇る都心づくり」のひとつに位置づけられたこの地域の中で、複数の行政を結びつける要としての役割を持ちます。

・新しい視点やアイデアがあるか

清須越によりできた名古屋を視覚的に確認できる「かたち」は市民に400年の歴史を知る貴重な資産となります。今まで清須越を視覚化するまちづくり活動は初めてです。伝馬橋のほか、南寺町、東寺町、信長、秀吉、家康にかかわる清須越寺院、いとう呉服店を始め、清須越商人達など限りなく続きます。今まで見過ごされていた埋もれた資産を掘り出し、市民全ての方々に体感していただくことは新たな活動であります。

審査基準③

実現性

- ・提案内容が具体的にになっているか
- ・事業予算は妥当か

時期	活動内容
成24年4月	前年度に提案書作成。名古屋市緑政土木局河川部河川計画課へ提案。
5月	名古屋都市センターまちづくり活動助成申請
6月	名古屋都市センターまちづくり活動助成プレゼンテーション
7月	中村土木事務所、名古屋市緑政土木局河川部河川計画課、教育委員会との細部調整
8月	形状、原稿調整
9月	同上、内諾を得る。
10月	道路占用申請
11月	史跡説明板発注
12月	伝馬橋史跡説明板設置
平成25年1月	
2月	
3月	

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
原稿作成費		提案書カラーコピー代、官庁調整交通費、	10,000
史跡説明板設置費	仮設工事	道路占用申請、工事中仮囲い、交通整理他	110,000
	基礎工事	掘削、鉄筋コンクリート工事、埋戻し	73,000
	サイン工事	アルミ製建て植えサイン、据付工事	341,000
	諸経費		94,000
	消費税	史跡説明板設置費合計分	30,900
計	都市センター助成金 500,000 円 自己資金 158,900 円 (前年度繰越金から)		658,900

審査基準④ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか
(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)	
・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか 伝馬橋のほか、南寺町、東寺町、信長、秀吉、家康にかかわる清須越寺院、いとう呉服店をはじめ、清須越商人達など限りなく続きます。郷土の風格とうるおいを形成し、名古屋市の観光資源を活性化させる触媒となることを目指します。	
・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか 名古屋市の都市計画マスタープランでは、「世界に誇る都心づくり」として「名古屋駅」「栄・伏見・大須」「ささしま・名古屋南」「納屋橋・四間道」の4地域を重点地域に位置づけ、積極的に地域まちづくりをすすめることと述べています。「納屋橋・四間道」地区では「歴史ある水辺空間である堀川を生かしたまちづくりを進めることで、都心の風格とうるおいを創出します。中略 歴史的な資源を生かした魅力ある空間づくりをめざす」と述べ、これを受けて「四間道・那古野地域まちづくり」立ち上げ団体会議(西区)の活動がはじまりました。この地域まちづくりは西区の枠のなかでの活動です。四間道は美濃路の裏道。納屋橋と四間道を繋ぐものとして美濃路、堀川が重要です。行政の枠、西区・中村区・中区を繋ぐ要としての伝馬橋史跡説明板は「地域まちづくりのさきがけ」となります。	
審査基準⑤ 活動実績と主体性	・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。) ・具体的にどんな熱意を注いでいるか
※「はじめの一歩部門」は審査の対象とはしません。 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。 この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。 団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。	
・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか 清須越の調査・研究、シンポジウム開催(3~4回/年)、清須越マップ6種類作成、同マップのパネル化、清須越をテーマとした新作狂言公演会開催、清須越冊子出版など。「納屋橋・四間道」の地域に限定すれば、当会の構成団体会員「美濃路まちづくり推進協議会」「那古野一丁目づくり研究会」が「四間道・那古野地域まちづくり」立ち上げ団体として参加しており、両会とも地域に根ざした長い活動実績と成果を上げてきている。	
・具体的にどんな熱意を注いでいるか 「那古野一丁目づくり研究会」は、平成20年度「まち“夢”工事部門」に選ばれ、「史跡表札の作成・設置」を行い、12箇所を設置しました。「美濃路まちづくり推進協議会」は西区~清須市の美濃路沿線に史跡説明板を26箇所自費で設置。マップ制作、ポケットパーク提案及び設計にも関わり、2箇所のポケットパークが実現しました。現在も西区五条橋西詰ポケットパーク提案を地元まちづくり団体と商店街団体の8団体共同で、名古屋市に提案しております。清須越400年事業ネットワークはこうした歴史資産をまちづくりに生かそうと、それぞれの団体個々の独自な活動とともに、ネットワークを組み、適宜協力しながら成果を上げております。自分たちの足元の地域とともに、名古屋市全体のまちづくりに取り組むことは熱意以外なものでもありません。	